

# 日本古典文学で時空を超える

## 五七五・七七の世界

入場  
無料

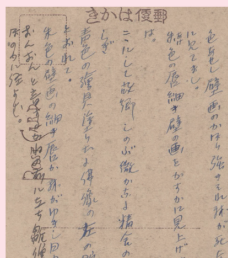
文化フォーラムは、人間文化学科の行事として地域の方々の熱心な参加と好評を受けて10年以上実施してきましたが、2021年度からは備後圏域経済・文化研究センターの行事として新たに出発します。備後文化の特徴を、地域の皆さま、学生とともに多角的に解明していきます。2021年度は短歌を主軸に、人間文化学科の日本文学・日本語学・アメリカ文学の教員に、古典文学、日本史、連歌の外部講師を加えて6回の講座を開講します。連歌の実践もあります。地域の歴史も踏まえて、楽しく古典に親しみましょう。

第1回

### 井伏鱒二と短歌的感性 —十代の教養—

日時 12月18日(土) 14:00~16:00 場所 福山大学 1号館 2F (O1204教室)

講師 福山大学 教授 青木美保 (日本近代文学)



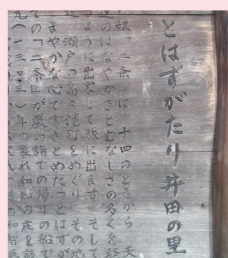
井伏鱒二が福山中学時代の同級生に宛てた手紙に、短歌が書かれたものがあります。それを含めて、井伏の作品には、古典文学の教養が垣間見られます。それも地域に関連したものがしばしばみられます。小説「さざなみ軍記」もそうです。その教養の源を、福山中学時代に探ります。

第2回

### 和歌と地域

日時 12月25日(土) 14:00~16:00 場所 福山大学 1号館 2F (O1204教室)

講師 広島大学 名誉教授 竹村信治氏



吉備国から697年(文武天皇元年)ころまでに分出された備後国。各所の地名は、風土記、万葉集をはじめ、和歌、歌謡、歌論、軍記、女流日記、紀行、説話などに散見されます。近世の幕藩体制の中で分断される以前の備後の歴史的景観を、古典作品を通じて瞥見します。

第3回

### 中世の福山の文学的背景 —戦国時代の福山と足利義昭周辺—

日時 1月29日(土) 14:00~16:00 場所 福山大学 未来創造館 3F (110301講義室)

講師 備陽史探訪の会 会長 田口義之氏



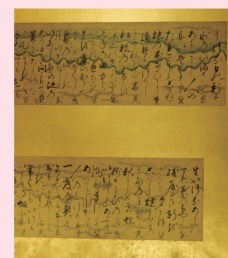
福山を含む備後地方は境目の国の中でも室町幕府が重視した地域で、有力国人領主は奉公衆として在京し、東山文化の担い手となった。足利義昭の「鞆動座」はこうした文化的政治的背景の上で行なわれたことで、彼の来住はこの地方に新たな文化的刺激を与えた。

第4回

### 連歌興行実践 —句が繋がっていく魅力—

日時 2月12日(土) 14:00~16:00 場所 福山大学 未来創造館 2F (自分未来活動エリア)

講師 福岡県立北筑高校 教諭・連歌研究者 黒岩淳氏



数人が集まり、五七五の長句と七七の短句を交互につなげていく連歌。中世に盛んに行われ、近年各地で復興しつつあります。連歌はどのようにして句が付けられていくのか、実際に体験してもらいながら、その面白さ、その魅力に迫っていききたいと思います。

第5回

### 英語で読む和歌と俳句

日時 2月19日(土) 14:00~16:00 場所 福山大学 1号館 2F (O1204教室)

講師 福山大学 教授 重迫隆司 (アメリカ文学)



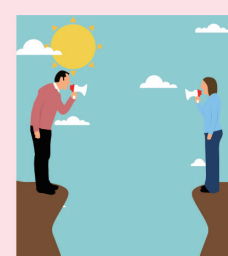
日本文学を代表する和歌と俳句は、実はかなり英語に訳されています。掛詞や余韻、5-7-5-7-7のリズムは、翻訳可能なのでしょうか。英語で読んで初めてわかる古語や背後の気持ち等、楽しく鑑賞してみたいと思います。

第6回

### 「声を合わせる」ということ —古典文学から始まるコミュニケーション史—

日時 2月26日(土) 14:00~16:00 場所 福山大学 1号館 2F (O1204教室)

講師 福山大学 准教授 脇忠幸 (日本語学)



『万葉集』の頃から続くと言われる「歌会」でも、現在の私たちの生活においても、複数人で「声を合わせる」ことがあります。私たちは「声を合わせる」ことで何をしてきたのか、という問いを手がかりに、古典文学の時代と現在を繋いでみようと思います。